

熊本県人吉市における「子ども第三の居場所」
コミュニティモデルの運営（2年目）
2023年度事業報告書

社会福祉法人グリーンコープ
子どもの居場所 ひだまり



事業計画

- **目的** 生き抜く力を育む「子ども第三の居場所」を運営する。行政、NPO、市民、企業の方々と協力し、誰一人取り残さない地域子育てコミュニティをつくることで「みんなが、みんなの子どもを育てる社会」を目指す
- **目標** ・2024年3月31日までに一日平均利用児童数を25名にする・ボランティア等の地域住民や、行政、学校との関係構築、多世代交流機会の提供・子どもの「経験の不足」を解消するような定期的なイベントを事業期間内に10回じっしする
- **事業内容**
熊本県人吉市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営
 - (1) 期間 2023年4月1日～2024年3月31日（週4日、13時から18時まで開所）
 - (2) 場所 熊本県人吉市
 - (3) 対象 25名（家庭や自身に課題を抱えた小中学生を中心に）
 - (4) 内容 子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する

開催回数 利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開催回数	16	18	18	16	17	18	17	18	15	15	17	17	202
未就学	14	11	7	16	11	27	30	30	29	25	32	16	248
小学生	22	55	33	30	60	51	41	41	39	52	47	129	600
中学生	34	61	63	73	59	106	77	77	38	80	102	68	838
高校生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大人	42	53	51	47	59	71	67	67	63	43	44	38	645
合計	128	198	172	182	206	273	232	233	184	215	242	268	2533

開催日数と利用人数について

開所から今年度2月まで、ひだまりを利用したのは、ほとんどが中学生でした。ひだまりは1人の中学生の支援からスタートし、その児童を中心に友人達が集まり、放課後のほとんどをひだまりで過ごしていました。その中には、入院の経験もある不登校児童もいました。気にかけてひだまりに誘ったのは最初に支援し始めた児童でした。9月から中学生の利用人数が増えたのは、夏休みの間、6時までひだまりでおやつを食べたり、カードゲームをして過ごし、ひだまりの閉所時間以降は暗くなるまで公園で鬼ごっこやサッカーなどをし、体力もついたので復学した児童が部活を引退した友人を次から次にひだまりに連れてきて一緒に過ごすようになったからです。中学3年生の利用が主だったため、徐々に受験への意識が高まり、12月の利用は減り、進路を決めた1月からは、ひだまりを息抜きの場とってる中学生が利用していました。ひだまりでは軽食やご飯を出すので、反抗期の中学生はひだまりで食事をし、家族とは食事をとらない子もいたようです。12月に中学生の利用が減ったため、小学生が来やすくなり、少しずつ、小学生の利用が増えてきました。2月には、前期試験に合格した中学生の利用が再び増え、新しい友人を連れて来るようになりました。同時に、小学校中学年の児童がひだまりに慣れ始め、その子もまた、友人達を次々に誘って、ひだまりの小学生の利用が3月は増えました。増えた小学生は、共働き、多子家庭の子どもがほとんどです。困窮世帯の夕飯支援が1月から本格的に始まりました。週に2回家族6人分の夕飯を支援しています。

県のSSW、社協、民生委員などからの紹介も増えました。地域のお店などもパンフレットがなくなると取りに来てくださったり、見学を勧めてくださっています。

ひだまりイベント

- 4月 ぞうきんを縫おう
大人も子どもも楽しめる紙芝居
モッツアレラチーズづくり
- 5月 母の日メッセージカードづくり
- 6月 梅シロップづくり
- 7月 OSOTO FES 参加
- 8月 ディキャンプ
- 9月 ラフティング
- 10月 防災食づくり
ポーセラーツ体験
- 11月 郷土料理教室
- 12月 餅つき
- 2月 豆まき
バレンタインスイーツづくり
- 3月 味噌づくり
バスツアー球泉洞
いちご狩り いちご大福づくり
筍堀り

